

ウィスコンシン大学マディソン校動物科学科教員との共同研究を実施

ウィスコンシン大学動物科学科に派遣中の後藤達彦助教より現地レポート②が届きました。

米国ウィスコンシン大学マディソン校 (UW-Madison) 動物科学科 (Department of Animal Science) での「ゲノム情報を用いた家畜動物が示す表現型の多様性を制御している遺伝子座の検索」に関連した共同研究を開始して、早くも3ヶ月目となりました。

動物遺伝育種学グループの、ハサン・カーティブ教授の研究室では、継続して、次世代シークエンサーを用いた、乳牛の繁殖性に関するゲノム解析のプロジェクトを行っています。

2017年6月には、UW-MadisonのDepartment of Animal Scienceが毎年行っているボランティアワークに参加しました。大学院生と共に、高速道路の路肩を約2時間かけて清掃しました。実際に体を動かしてボランティアワークをすることは、大学で研究を行っている研究者らが、どのように地域社会に貢献できるかという点について考える、良い機会だと感じました。

関係教員および職員や学生のみなさまには、継続して様々なサポートをしていただいております。心から感謝申し上げます。



UW-Madison 動物科学科のボランティアワーク後の様子



ハサン・カーティブ教授とのディスカッションの様子